

# 仕事と生活の調和に関する世論調査 < 概要 >

平成 20 年 5 月

## 調査実施の概要

### 1 調査目的

ライフスタイルや仕事観、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）に関する都民の意識や要望を把握し、今後の施策推進の参考とする。

### 2 調査項目

- |               |                            |
|---------------|----------------------------|
| (1) 仕事以外の生活   | (3) 子育て・介護を取りまく環境          |
| (2) 仕事の状況と仕事観 | (4) ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和） |

### 3 調査設計

- (1) 調査対象：東京都に住む満 20 歳以上の男女個人
- (2) 標本数：3,000 標本
- (3) 標本抽出方法：住民基本台帳に基づく層化二段無作為抽出法
- (4) 調査方法：調査員による個別訪問面接聴取法
- (5) 調査期間：平成 20 年 2 月 22 日～ 3 月 9 日
- (6) 調査実施機関：株式会社 エスピー研

### 4 回収結果

- |                |                 |
|----------------|-----------------|
| (1) 有効回収標本数（率） | 2,063 標本（68.8%） |
| (2) 未完了標本数（率）  | 937 標本（31.2%）   |

東京都生活文化スポーツ局

## 調査結果の概要

nは回答者数

3 M.A.は3つ選択、2 M.A.は2つ選択

M.A.はいくつでも選択

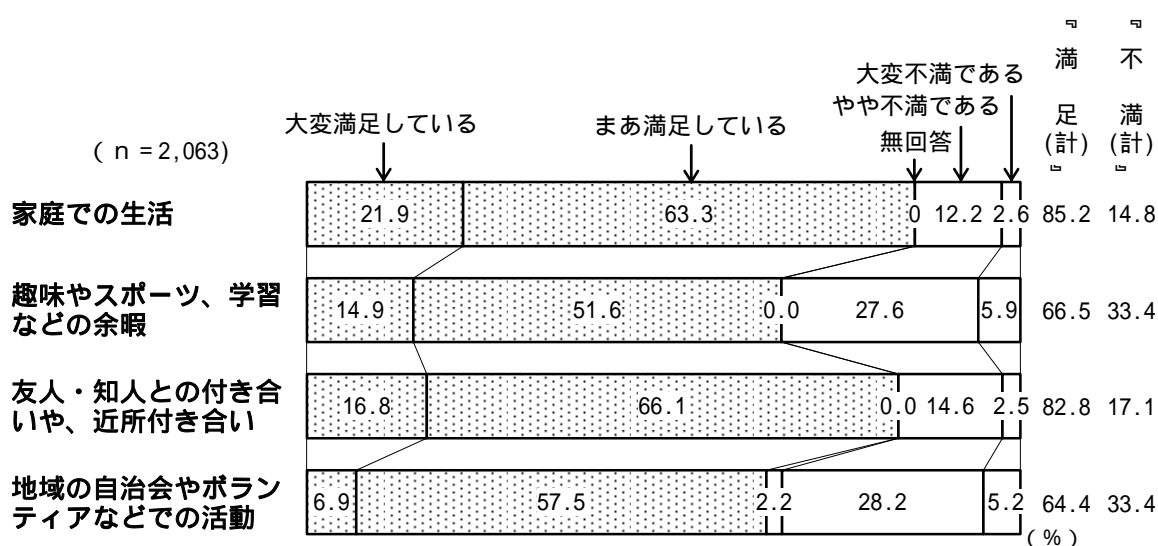
M.T.は回答の合計をnで割った比率

### 1 仕事以外の生活

(1) 仕事以外の生活の満足度：仕事以外の生活の満足度について、4項目に分けて聞いた。

(本文P3～P11)

- ・家庭での生活は、『満足(計)』85%、『不満(計)』15%
- ・趣味やスポーツ、学習などの余暇は、『満足(計)』67%、『不満(計)』33%
- ・友人・知人との付き合いや、近所付き合いは、『満足(計)』83%、『不満(計)』17%
- ・地域の自治会やボランティアなどでの活動は、『満足(計)』64%、『不満(計)』33%



(注)『満足(計)』は「大変満足している」「まあ満足している」の合計

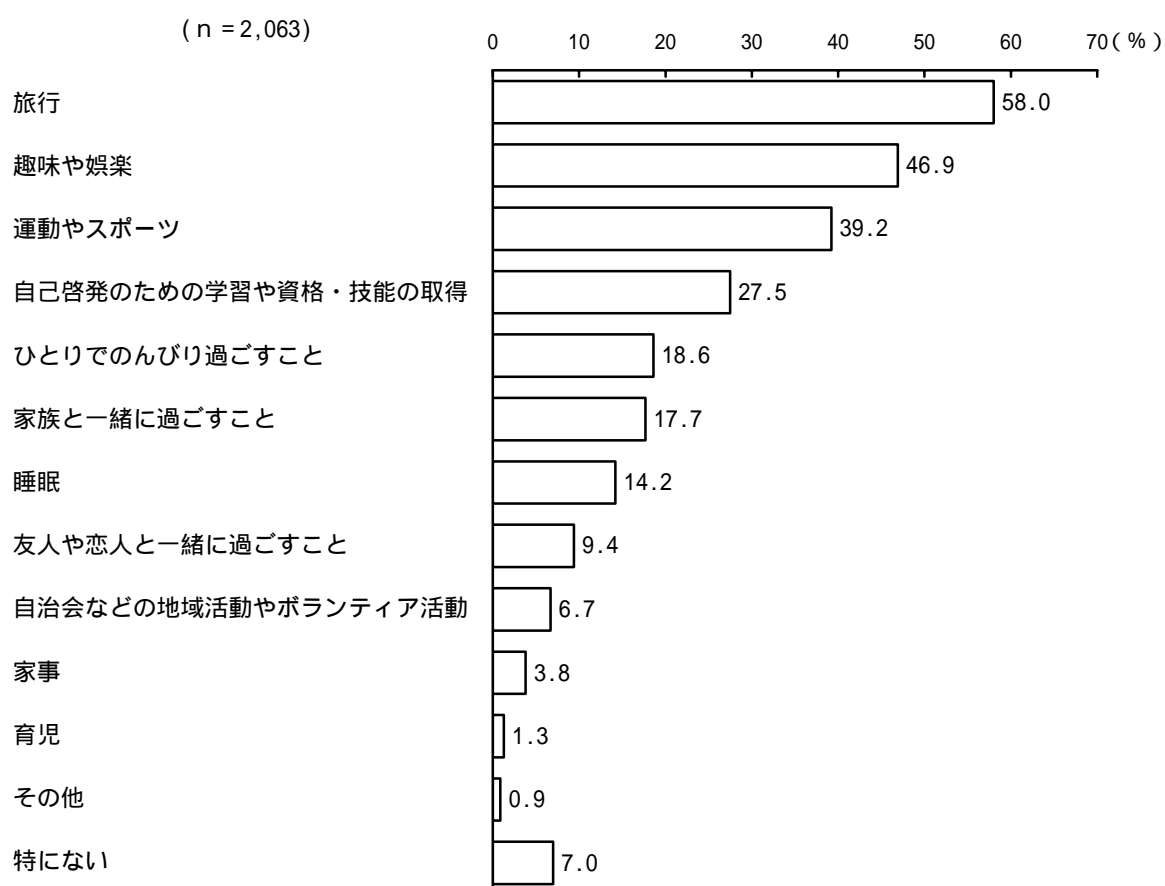
『不満(計)』は「やや不満である」「大変不満である」の合計

(2) もっと時間をかけてやりたいこと：

ふだんの生活の中では時間がなくてできないが、時間があったらやりたいと思っていること、またはもっと時間をかけてやりたいことを聞いた。(3M・A)

(本文P12～P14)

- ・「旅行」58%がトップ
- ・「趣味や娯楽」47%、「運動やスポーツ」39%が続く



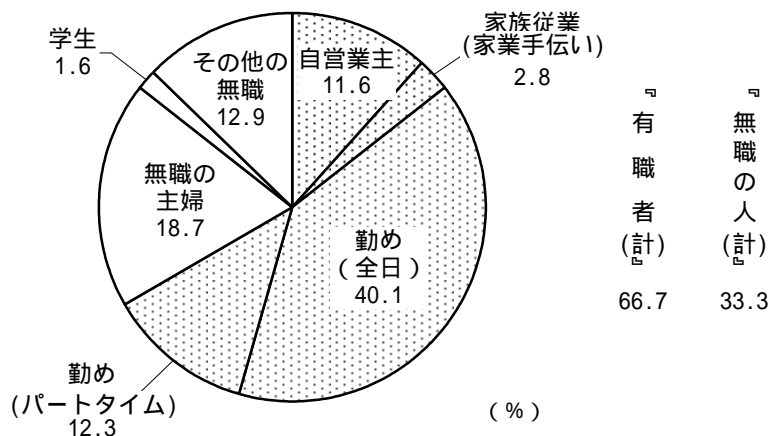
## 2 仕事の状況と仕事観

(1) 就業の有無：職業を聞いた。

(本文 P 15 ~ P 18)

- ・『有職者(計)』は 67%
- ・『無職の人(計)』は 33%

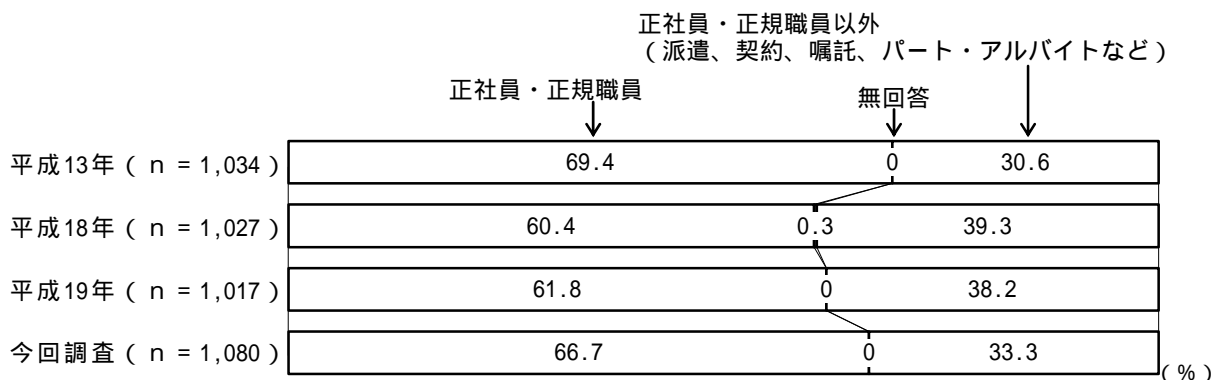
(n = 2,063)



(注)『有職者(計)』は「自営業主」「家族従業(家業手伝い)」「勤め(全日)」「勤め(パートタイム)」の合計  
『無職の人(計)』は「無職の主婦」「学生」「その他の無職」の合計

[正社員・正規職員か、正社員・正規職員以外か]：「勤め(全日)」「勤め(パートタイム)」と答えた人(1,080人)に、働き方を聞いた。

- ・「正社員・正規職員」は 67% (前回調査より 5 ポイント増加)
- ・「正社員・正規職員以外(派遣、契約、嘱託、パート・アルバイトなど)」は 33% (前回調査より 5 ポイント減少)



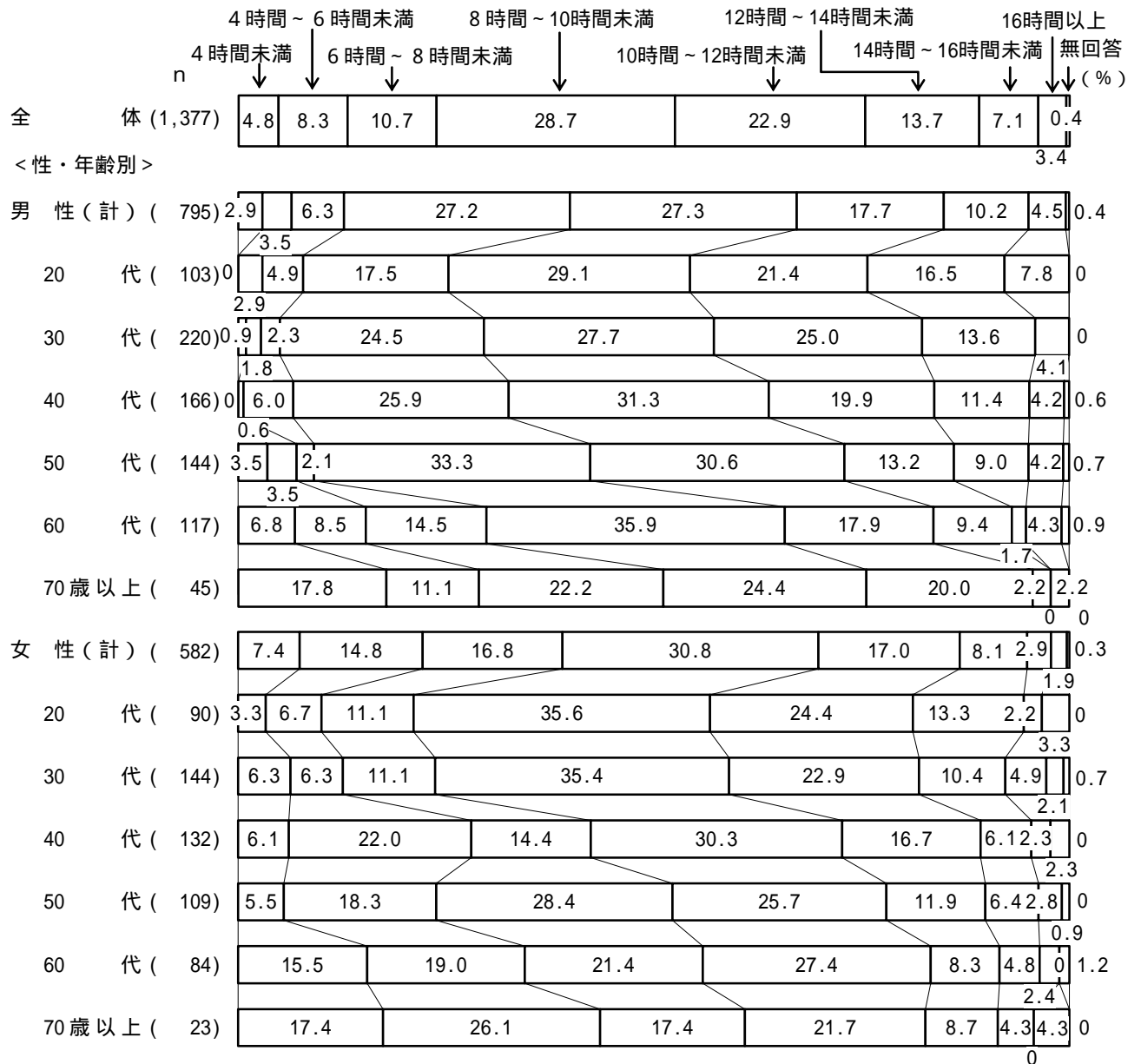
(注)平成13年は「労働に関する世論調査」、平成18年と平成19年は「都民生活に関する世論調査」

(2) 一日の勤務時間・通勤時間の合計：

有職者(1,377人)に、ふだんの一日の勤務時間と通勤時間を合わせた時間を聞いた。

(本文P19～P20)

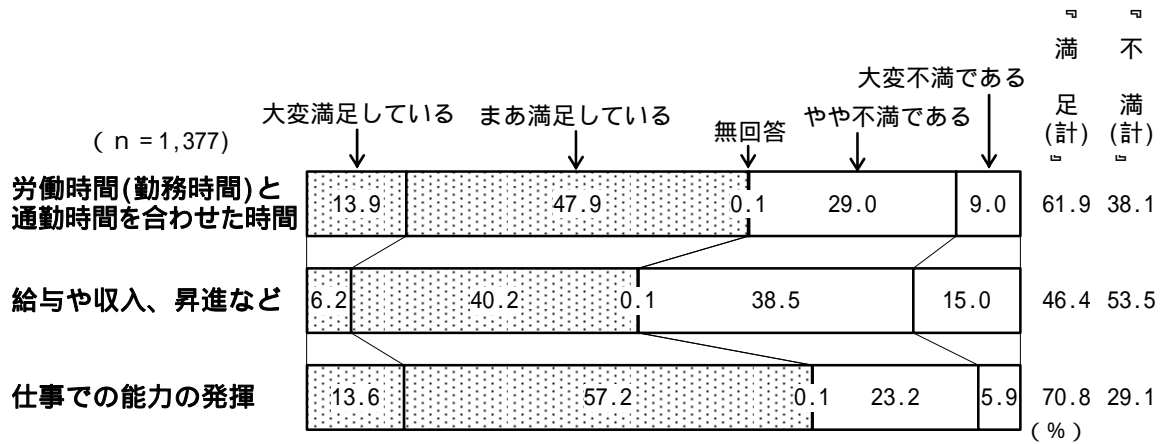
- ・「8時間～10時間未満」29%がトップ
- ・「10時間～12時間未満」23%、「12時間～14時間未満」14%が続く
- ・合計が12時間以上の人の割合は、全体の24%
- ・合計が10時間以上の人の割合は女性より男性が高く、男性の20代で最も高い



( 3 ) 仕事の満足度：有職者（1,377 人）に、仕事の満足度を 3 項目に分けて聞いた。

( 本文 P 21 ~ P 27 )

- ・労働時間（勤務時間）と通勤時間を合わせた時間は、『満足（計）』62%、『不満（計）』38%
- ・給与や収入、昇進などは、『満足（計）』46%、『不満（計）』54%
- ・仕事での能力の発揮は、『満足（計）』71%、『不満（計）』29%

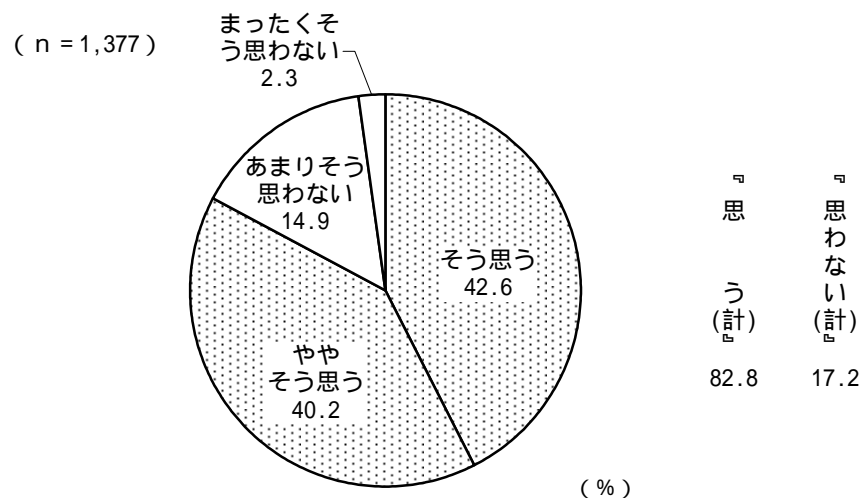


( 注 ) 『満足（計）』は「大変満足している」「まあ満足している」の合計  
『不満（計）』は「やや不満である」「大変不満である」の合計

( 4 ) 仕事への意欲：有職者（1,377 人）に、今の仕事に目的意識を持って積極的に取り組んでいるか聞いた。

( 本文 P 28 ~ P 29 )

- ・『思う（計）』は 83%
- ・『思わない（計）』は 17%

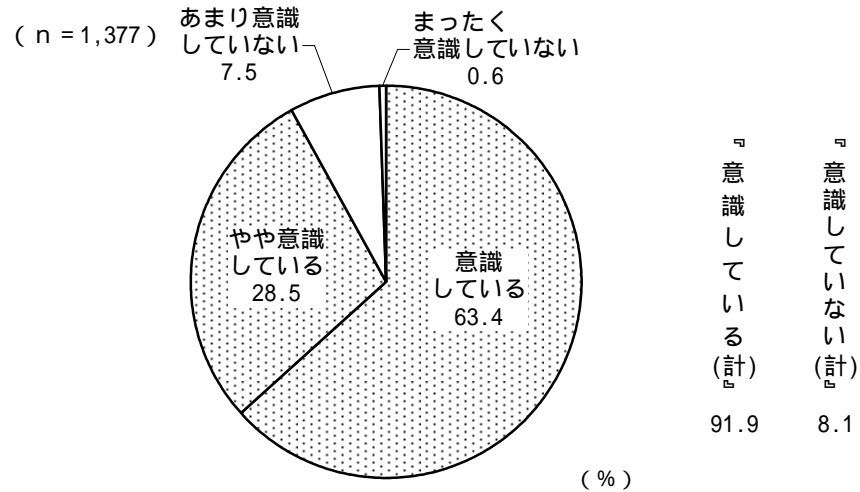


( 注 ) 『思う（計）』は「そう思う」「ややそう思う」の合計  
『思わない（計）』は「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の合計

(5) 仕事の効率化の意識：有職者(1,377人)に、ふだん、短い時間で効率よく進めることを意識して仕事に取り組んでいるか聞いた。

(本文 P30 ~ P32)

- ・『意識している(計)』は92%
- ・『意識していない(計)』は8%



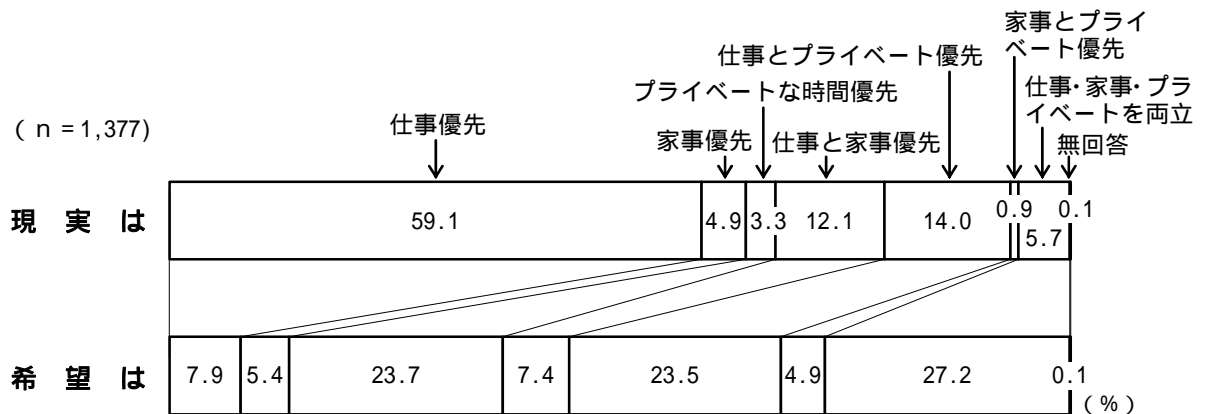
(注)『意識している(計)』は「意識している」「やや意識している」の合計  
『意識していない(計)』は「あまり意識していない」「まったく意識していない」の合計

(6) 仕事・家事・プライベートな時間の優先度(現実と希望)：

有職者(1,377人)に、生活の中での仕事・家事(育児)・プライベートな時間(趣味など)の優先度について、『現実(計)』としての優先度と、『希望(計)』の優先度の2つに分けて聞いた。

(本文 P33 ~ P38)

- ・現実には、「仕事優先」59%がトップ  
「仕事とプライベート優先」14%が続き、「仕事・家事・プライベートを両立」は6%
- ・希望は、「仕事・家事・プライベートを両立」27%がトップ  
「プライベートな時間優先」と「仕事とプライベート優先」24%が続き、「仕事優先」は8%



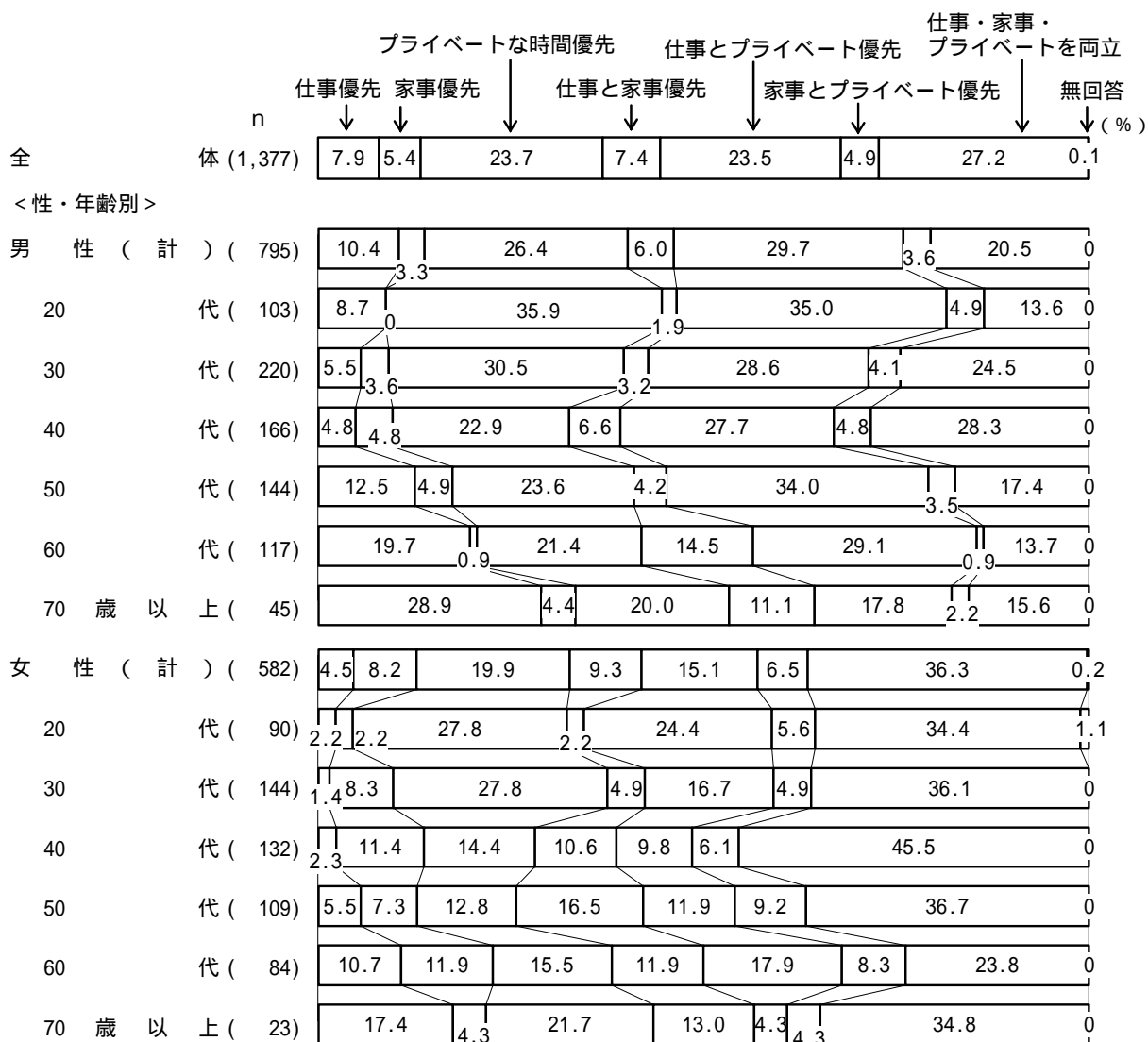
- ・現実の優先度は、「仕事優先」が男女とも全ての年代でトップ
- ・「仕事優先」は男性40代で最も割合が高く7割を超える
- ・「家事優先」「仕事と家事優先」は女性40代で最も割合が高い

仕事・家事・プライベートな時間の優先度（現実） 性・年齢別

性・年齢別	n	仕事・家事・プライベートな時間の優先度（現実）						
		仕事優先	家事優先	プライベートな時間優先	仕事と家事優先	仕事とプライベート優先	家事とプライベート優先	
全体 (1,377)		59.1	4.9	3.3	12.1	14.0	5.7	
<性・年齢別>							0.9 0.1	
男性 (計) (795)		67.2			4.0	6.0	16.0	4.9
20代 (103)		68.0			0	1.0	22.3	0
30代 (220)		65.9			2.3	5.5	6.4	17.3
40代 (166)		71.7			0.6	7.2	14.5	1.2
50代 (144)		70.8			1.4	2.8	14.6	6.3
60代 (117)		63.2			1.7	5.1	10.3	11.1
70歳以上 (45)		53.3			2.2	6.7	11.1	17.8
女性 (計) (582)		48.1	9.8			20.3	11.3	6.7
20代 (90)		48.9	6.7	4.4	11.1		24.4	0
30代 (144)		50.7	9.7			18.1	13.9	4.9
40代 (132)		31.1	15.9	3.0	30.3		7.6	9.1
50代 (109)		54.1	7.3			21.1	6.4	9.2
60代 (84)		53.6	8.3			20.2	8.3	6.0
70歳以上 (23)		78.3					4.3	8.7

- ・希望の優先度は、「仕事・家事・プライベートを両立」が女性 40 代で最も割合が高く、4 割半ばを占める

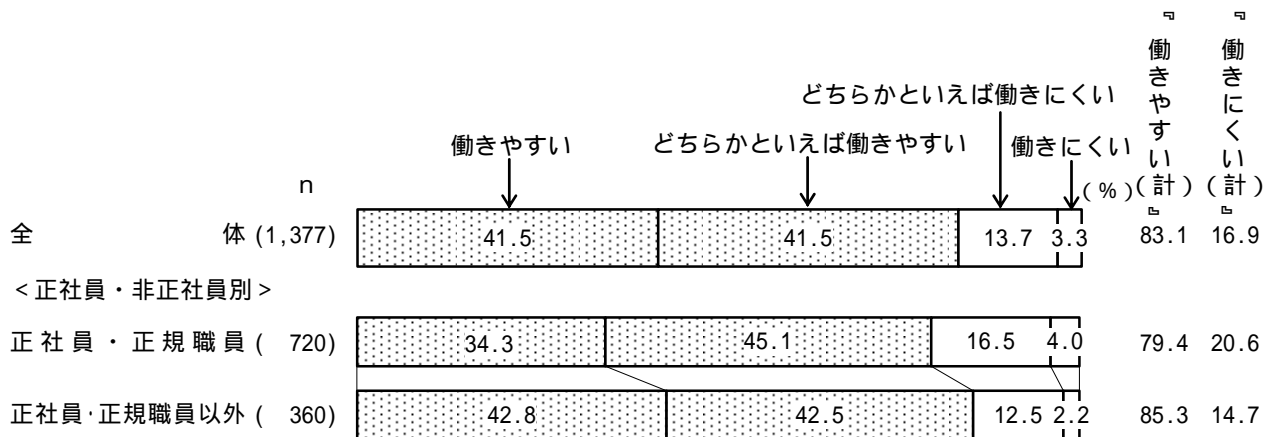
仕事・家事・プライベートな時間の優先度（希望） 性・年齢別



(7) 職場の働きやすさ：有職者(1,377人)に、職場や仕事場が働きやすいか聞いた。

(本文P39～P41)

- ・『働きやすい(計)』は83%、『働きにくい(計)』は17%
- ・『働きにくい(計)』は正社員・正規職員のほうが割合が高い



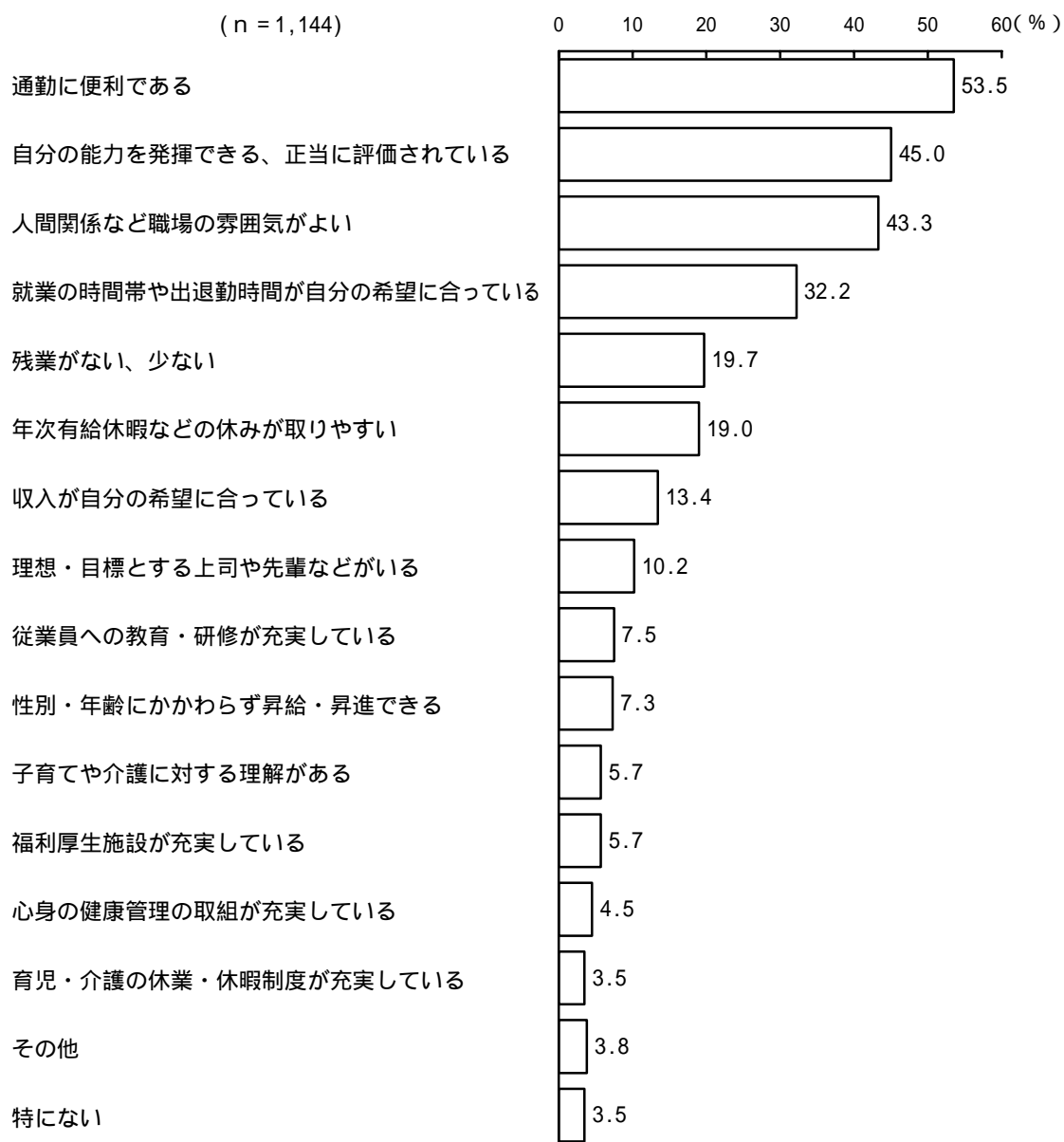
(注)『働きやすい(計)』は「働きやすい」「どちらかといえば働きやすい」の合計  
 『働きにくい(計)』は「どちらかといえば働きにくい」「働きにくい」の合計

( 8 ) 働きやすいと思うこと :

職場や仕事場が働きやすいと感じる人 ( 1,144 人 ) に、その理由を聞いた。( M . A . )

( 本文 P 42 ~ P 43 )

- ・ 「通勤に便利である」 54% がトップ
- ・ 「自分の能力を発揮できる、正当に評価されている」 45%、 「人間関係など職場の雰囲気がよい」 43% が続く

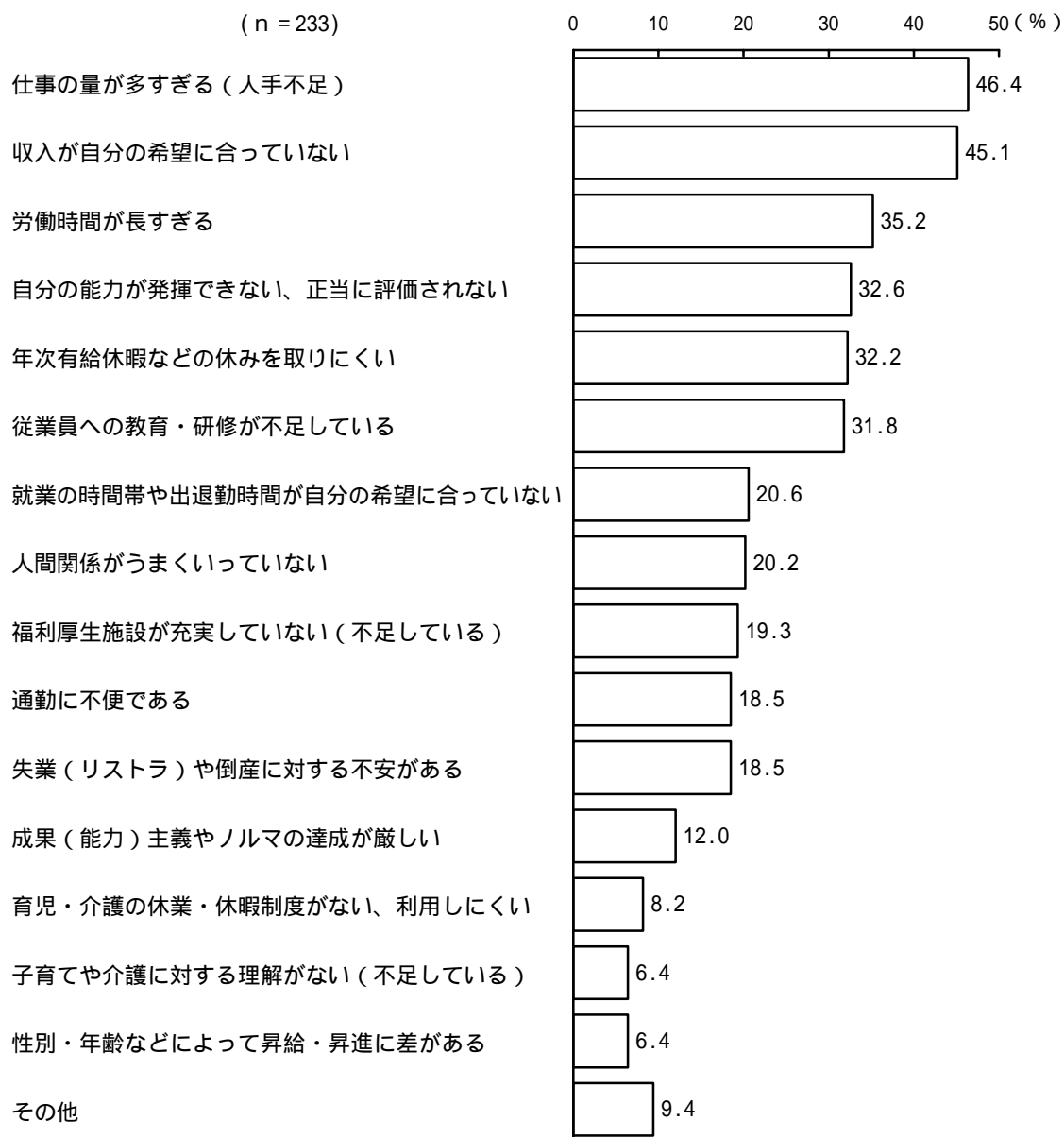


(9) 働きにくいと思うこと：

職場や仕事場が働きにくいと感じる人(233人)に、その理由を聞いた。(M.A.)

(本文P44~P45)

- ・「仕事の量が多すぎる(人手不足)」46%、「収入が自分の希望に合っていない」45%が多い
- ・「労働時間が長すぎる」35%、「自分の能力が発揮できない、正当に評価されない」33%が続く

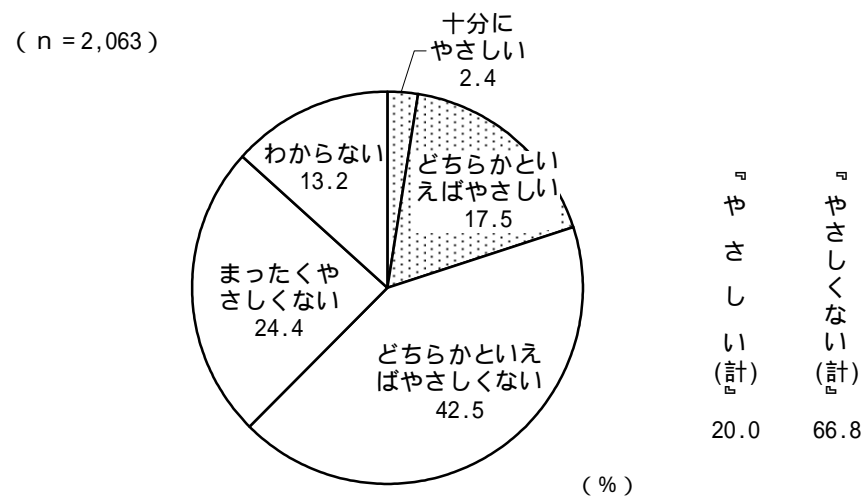


### 3 子育て・介護を取りまく環境

(1) 子育て・介護にやさしい社会か：今の社会は子育てや介護にやさしい社会だと思うか聞いた。

(本文 P46 ~ P48)

- ・ 『やさしい(計)』は20%
- ・ 『やさしくない(計)』は67%



(注) 『やさしい(計)』は「十分によさしい」「どちらかといえばやさしい」の合計

『やさしくない(計)』は「どちらかといえばやさしくない」「まったくやさしくない」の合計

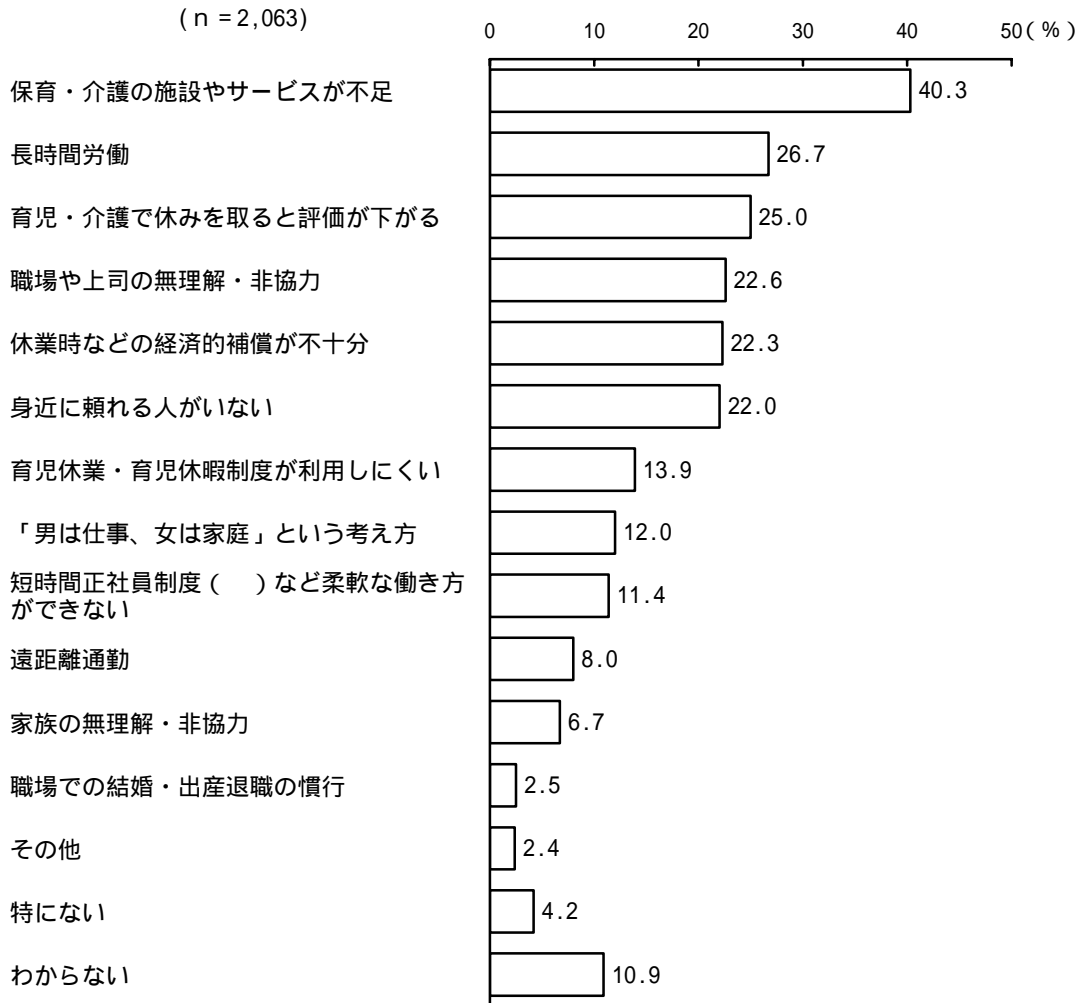
(2) 子育て・介護と仕事の両立を阻害している要因：

子育てや介護と仕事の両立を阻害していることはどんなことだと思うか聞いた。

(3M.A.)

(本文P49～P51)

- ・「保育・介護の施設やサービスが不足」40%がトップ
- ・「長時間労働」27%、「育児・介護で休みを取ると評価が下がる」25%が続く



短時間正社員制度とは

短時間正社員制度とは、フルタイム正社員より一週間の所定労働時間が短い正社員のこと。

フルタイム正社員が短時間・短日勤務を一定期間行う場合や、正社員の所定労働時間を恒常的に短くする場合がある。

(3) 退職した女性が再就職して正社員として活躍できる社会か：

結婚や出産・育児のため一度退職した後、再就職を希望する人が正社員として活躍できる機会（チャンス）が十分ある社会だと思うか聞いた。

(本文 P52～P54)

- ・『思う(計)』は17%・『思わない(計)』は73%
- ・『思わない(計)』は男女とも40代の割合が高く、女性の40代では8割を超える

	n	どちらかといえばそう思う				『思う(計)』 (%)	『思わない(計)』 (%)
		『そう思う』	『わからない』	『どちらかといえばそう思わない』	『そう思わない』		
全体 (2,063)		3.7	12.9	9.9	34.5	38.9	16.7 73.4
<b>&lt;性・年齢別&gt;</b>							
男性(計) (1,024)		4.5	13.0	10.4	33.7	38.4	17.5 72.1
20代 (130)		3.8	12.3	11.5	42.3	30.0	16.2 72.3
30代 (225)		4.9	13.8	11.1	33.8	36.4	18.7 70.2
40代 (173)		4.6	12.7	5.8	37.0	39.9	17.3 76.9
50代 (159)		3.1	17.6	8.8	29.6	40.9	20.8 70.4
60代 (178)		5.6	9.0	10.1	31.5	43.8	14.6 75.3
70歳以上 (159)		4.4	12.6	15.7	29.6	37.7	17.0 67.3
女性(計) (1,039)		3.0	12.9	9.4	35.2	39.5	15.9 74.7
20代 (113)		6.2	15.0	10.6	38.1	30.1	21.2 68.1
30代 (213)		2.3	13.1	5.6	34.3	44.6	15.5 78.9
40代 (178)		2.2	11.2	2.8	43.8	39.9	13.5 83.7
50代 (164)		2.4	13.4	8.5	39.0	36.6	15.9 75.6
60代 (185)		3.2	13.0	7.6	31.9	44.3	16.2 76.2
70歳以上 (186)		2.7	12.4	22.0	26.3	36.6	15.1 62.9

(注)『思う(計)』は「『そう思う』」「どちらかといえばそう思う」の合計  
『思わない(計)』は「『どちらかといえばそう思わない』」「『そう思わない』」の合計

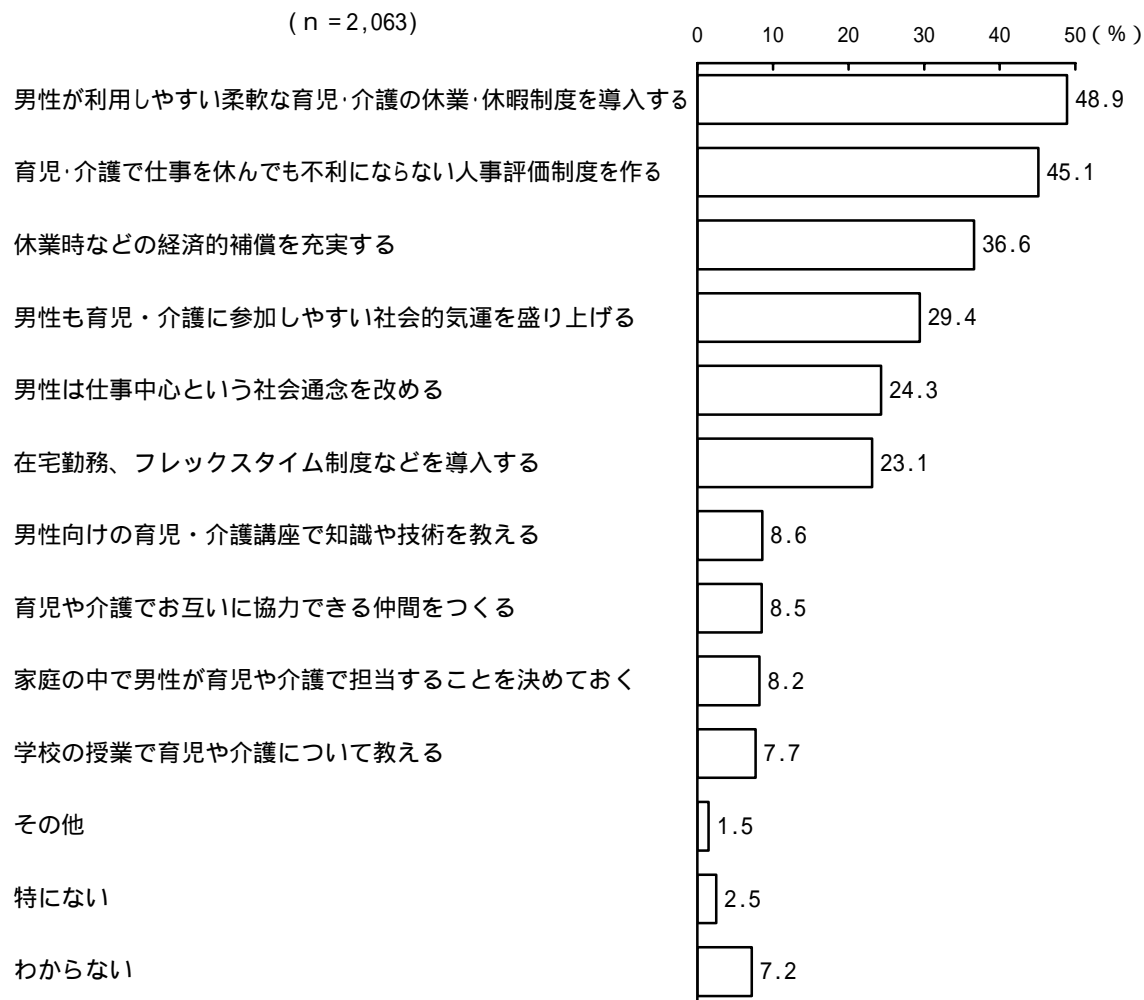
(4) 男性が育児・介護に参加するために必要なこと：

今後男性が育児や介護に参加していくためには、どのようなことが必要だと思うか聞いた。

(3M.A.)

(本文P55～P57)

- ・「男性が利用しやすい柔軟な育児・介護の休業・休暇制度を導入する」49%がトップ
- ・「育児・介護で仕事を休んでも不利にならない人事評価制度を作る」45%、「休業時などの経済的補償を充実する」37%が続く



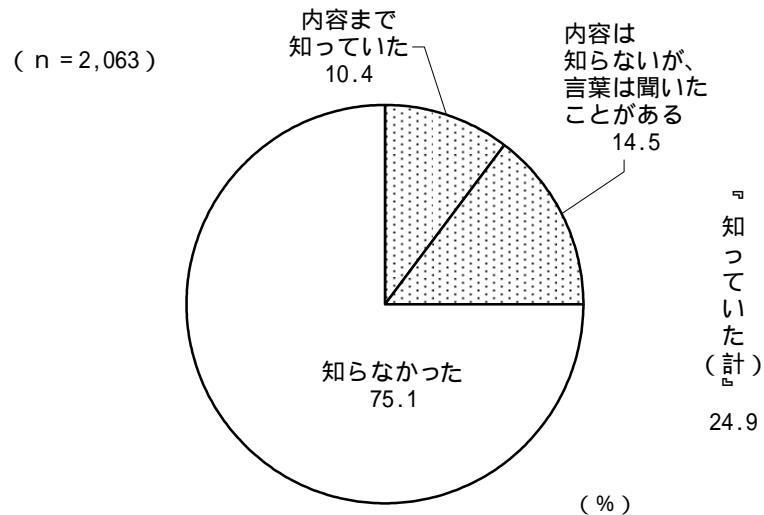
#### 4 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）

(1) 「ワーク・ライフ・バランス」の認知度：

「ワーク・ライフ・バランス」という言葉を知っていたか聞いた。

(本文 P58 ~ P60)

- ・「内容まで知っていた」は 10%、「内容は知らないが、言葉は聞いたことがある」は 15%
- ・「知らなかった」は 75%



(注)『知っていた (計)』は「内容まで知っていた」「内容は知らないが、言葉は聞いたことがある」の合計

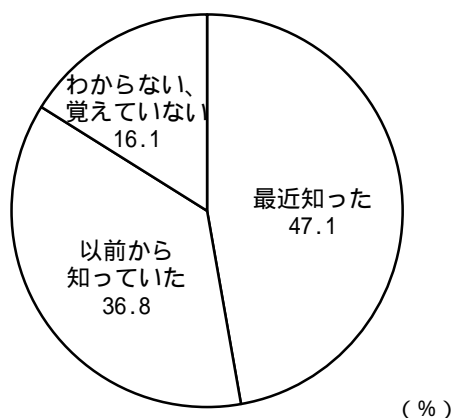
(2) 「ワーク・ライフ・バランス」を知った時期：

「ワーク・ライフ・バランス」という言葉を知っていた人 (514 人) に、知った時期を聞いた。

(本文 P61 ~ P62)

- ・「最近知った」は 47%
- ・「以前から知っていた」は 37%

( n = 514 )

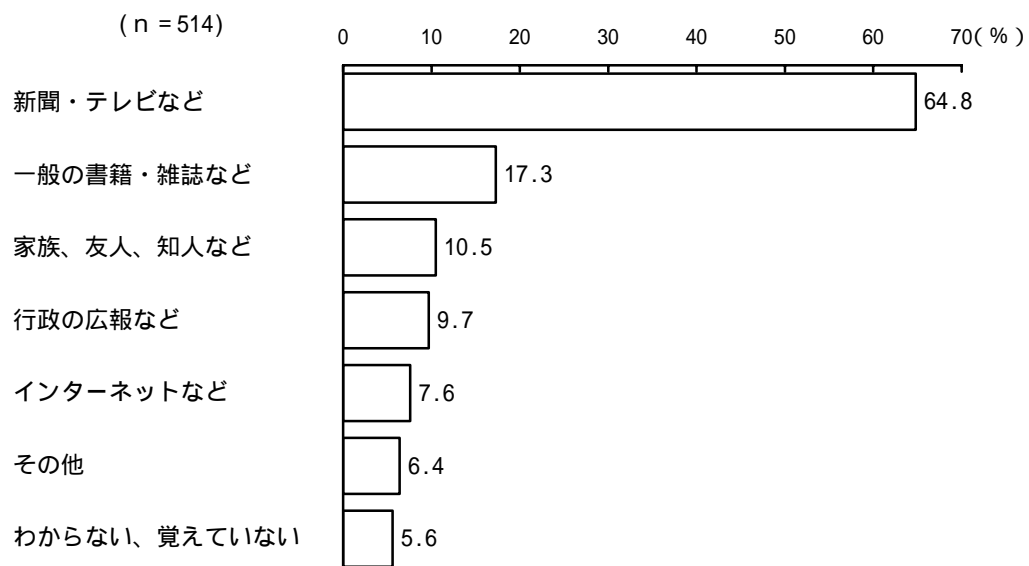


(3) 「ワーク・ライフ・バランス」を何で知ったか：

「ワーク・ライフ・バランス」という言葉を知っていた人(514人)に、何で知ったか聞いた。(M.A.)

(本文P63～P64)

- ・「新聞・テレビなど」65%がトップ
- ・「一般の書籍・雑誌など」17%、「家族、友人、知人など」11%が続く



(4) ワーク・ライフ・バランスの実現度：自身の、仕事と仕事以外の生活のバランスが取れていると思うか聞いた。

(本文 P65 ~ P68)

- ・『思う(計)』は54%、『思わない(計)』は37%
- ・『思う(計)』は女性より男性の割合が低い。男性の40代が最も低く、約4割

n	どちらかといえばそう思う					どちらかといえばそう思わない					『思う(計)』 (%)	『思わない(計)』 (%)
	『そう思う』	『わからない・自分にはあてはまらない』	『そう思う』	『わからない・自分にはあてはまらない』	『そう思わない』	『わからない・自分にはあてはまらない』	『そう思わない』	『わからない・自分にはあてはまらない』	『そう思わない』			
全体 (2,063)	17.6	36.7	8.6	21.6	15.5						54.3	37.1
<b>&lt;性・年齢別&gt;</b>												
男性(計) (1,024)	15.5	34.9	9.1	22.6	18.0						50.4	40.5
20代 (130)	13.1	35.4	5.4	25.4	20.8						48.5	46.2
30代 (225)	9.8	35.6	3.6	27.1	24.0						45.3	51.1
40代 (173)	8.7	30.6	4.0	33.5	23.1						39.3	56.6
50代 (159)	18.9	36.5	3.1	19.5	22.0						55.3	41.5
60代 (178)	19.7	42.1		13.5	14.0	10.7					61.8	24.7
70歳以上 (159)	25.2	28.3		26.4	14.5	5.7					53.5	20.1
女性(計) (1,039)	19.6	38.5	8.2	20.7	13.0						58.1	33.7
20代 (113)	19.5	38.1	9.7	23.0	9.7						57.5	32.7
30代 (213)	11.3	42.7	1.9	24.4	19.7						54.0	44.1
40代 (178)	12.9	42.1	0.6	28.7	15.7						55.1	44.4
50代 (164)	18.9	39.0	4.3	23.8	14.0						57.9	37.8
60代 (185)	30.3	40.0	8.1	13.5	8.1						70.3	21.6
70歳以上 (186)	25.8	28.5	25.3	11.8	8.6						54.3	20.4

(注)『思う(計)』は「『そう思う』」「『どちらかといえばそう思う』」の合計  
『思わない(計)』は「『どちらかといえばそう思わない』」「『そう思わない』」の合計

・一日の勤務時間・通勤時間の合計が12時間以上となる人全体では、バランスが取れていると『思う』人は3割台

ワーク・ライフ・バランスの実現度 一日の勤務時間・通勤時間の合計別

n	どちらかといえばそう思う		どちらかといえばそう思わない		思う (%)	思 わ な い (計)	思 わ な い (計)
	そう思う	わからない・ 自分にはあてはまらない	わからない・ 自分にはあてはまらない	そう思わない			
全 体 (2,063)	17.6	36.7	8.6	21.6	15.5	54.3	37.1

<一日の勤務時間・通勤時間の合計別>

勤務時間・通勤時間	n	そう思う	わからない・ 自分にはあてはまらない	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	思う (%)	思 わ な い (計)	思 わ な い (計)	
4時間未満	66			37.9	33.3	6.1	12.1	10.6	71.2	22.7
4時間～6時間未満	114	21.1		43.9	3.5	22.8	8.8		64.9	31.6
6時間～8時間未満	148	26.4		39.2	2.0	24.3	8.1		65.5	32.4
8時間～10時間未満	395	15.4		45.8	2.8	21.5	14.4		61.3	35.9
10時間～12時間未満	316	13.3		40.2	3.2	25.9	17.4		53.5	43.4
12時間～14時間未満	188	8.0	28.7	2.1	34.0	27.1			36.7	61.2
14時間～16時間未満	98	8.2	18.4	4.1	32.7	36.7			26.5	69.4
16時間以上	47	8.5	27.7	0	21.3	42.6			36.2	63.8

<一日の勤務時間・通勤時間の合計 12時間以上(計)>

n	そう思う	わからない・ 自分にはあてはまらない	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	思う (%)	思 わ な い (計)	思 わ な い (計)
12時間以上(計) (333)	8.1	25.5	2.4	31.8	32.1		33.6	64.0

(注)『思う(計)』は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計

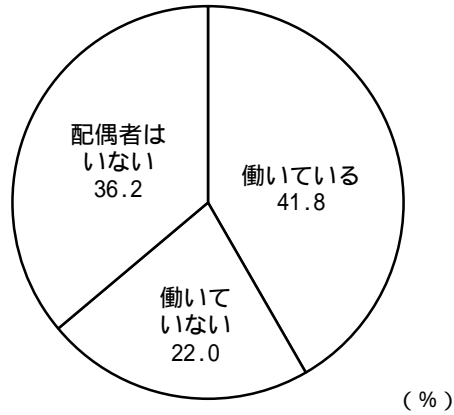
『思わない(計)』は「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の合計

(5) 配偶者の仕事の有無：配偶者が仕事をしているか聞いた。

(本文 P69)

- ・「働いている」は 42%、「働いていない」は 22%

(n = 2,063)



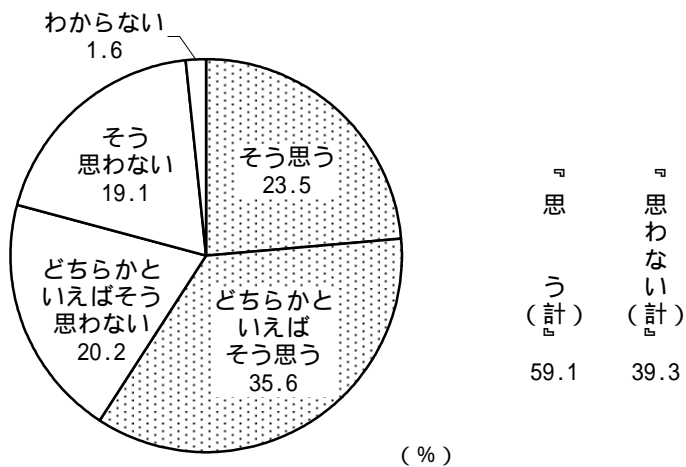
(6) 配偶者のワーク・ライフ・バランスの実現度：

配偶者が働いていると答えた人 (863 人) に、配偶者の仕事と仕事以外の生活のバランスは取れていると思うか聞いた。

(本文 P70 ~ P71)

- ・『思う(計)』は 59%
- ・『思わない(計)』は 39%

(n = 863)



(注)『思う(計)』は「思う」「どちらかといえば思う」の合計

『思わない(計)』は「どちらかといえば思わない」「思わない」の合計

(7) ワーク・ライフ・バランスを進めるべきか：

仕事と家庭・育児の両立のためだけでなく、性別、年齢、子どもの有無などを問わず、すべての人が柔軟で多様な生き方を選択できるようにするためにも、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」を進めていこうという意見について、どう思うか聞いた。

(本文 P72～P75)

- ・『思う(計)』は80%、『思わない(計)』は5%
- ・『思う(計)』は男性より女性の割合が高く、女性の30代と40代では9割以上

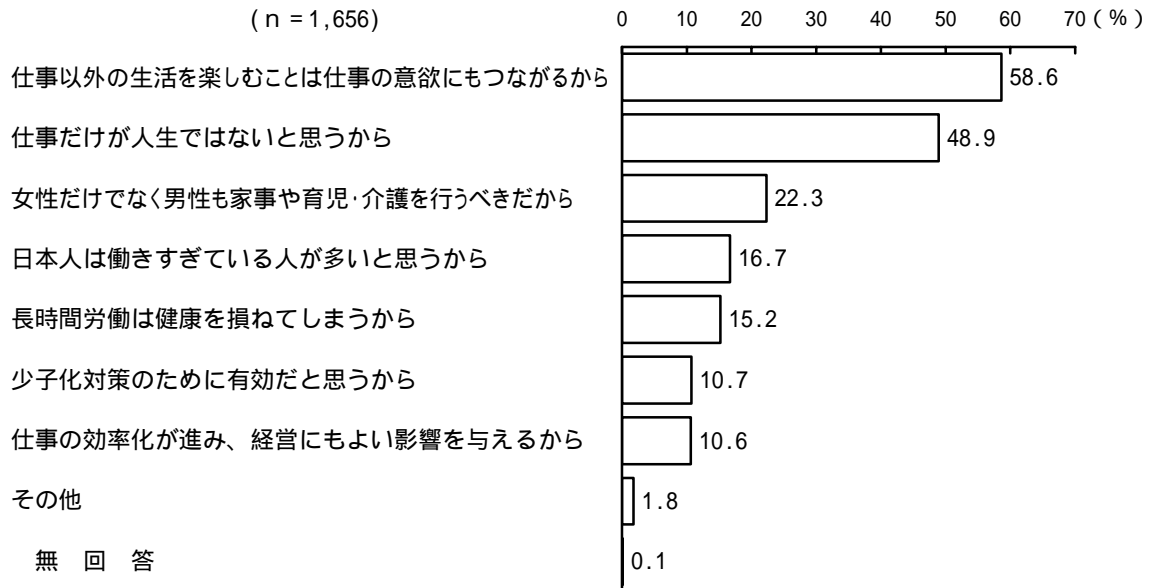
n	%				『思う(計)』	『思わない(計)』
	『思う(計)』	『思わない(計)』	『思う(計)』	『思わない(計)』		
全体 (2,063)	48.3	31.9	15.2	3.1	80.3	4.6
<b>&lt;性・年齢別&gt;</b>						
男性(計) (1,024)	45.2	32.3	16.2	3.9	77.5	6.3
20代 (130)	47.7	36.9	8.5	3.8	84.6	6.9
30代 (225)	48.9	30.2	13.3	5.3	79.1	7.6
40代 (173)	50.9	34.1	10.4	2.9	85.0	4.6
50代 (159)	46.5	33.3	13.2	3.8	79.9	6.9
60代 (178)	37.1	36.0	22.5	2.8	73.0	4.5
70歳以上 (159)	39.6	24.5	28.9	4.4	64.2	6.9
女性(計) (1,039)	51.4	31.6	14.1	2.2	83.0	2.9
20代 (113)	58.4	25.7	14.2	1.8	84.1	1.8
30代 (213)	53.5	37.6	7.0	1.4	91.1	1.9
40代 (178)	52.2	41.0	3.4	2.8	93.3	3.4
50代 (164)	57.9	27.4	9.8	4.3	85.4	4.9
60代 (185)	54.6	25.9	15.7	2.7	80.5	3.8
70歳以上 (186)	34.9	28.5	34.9	0.5	63.4	1.6

(注)『思う(計)』は「『思う』」「『どちらかといえば思う』」の合計  
 『思わない(計)』は「『どちらかといえば思わない』」「『思わない』」の合計

( 8 ) ワーク・ライフ・バランスを進めるべきと思う理由 :

「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」を進めていこうという意見について「そう思う」「どちらかというと思う」と答えた人(1,656人)に、その理由を聞いた。(2M・A・) (本文P76~P78)

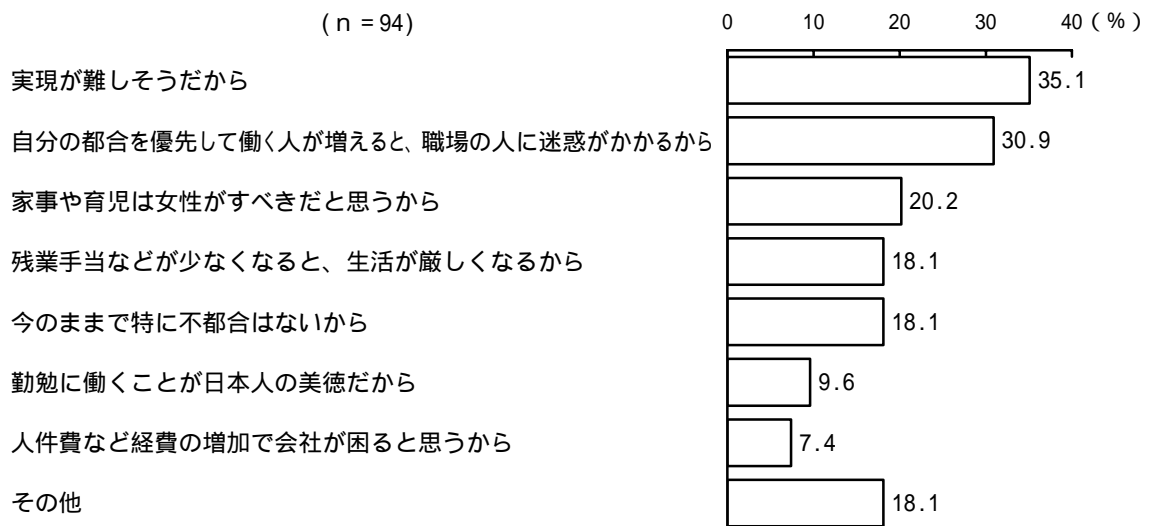
- ・「仕事以外の生活を楽しむことは仕事の意欲にもつながるから」59%がトップ
- ・「仕事だけが人生ではないと思うから」49%、「女性だけでなく男性も家事や育児・介護を行うべきだから」22%が続く



( 9 ) ワーク・ライフ・バランスを進めるべきと思わない理由 :

「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」を進めていこうという意見について「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と答えた人(94人)に、その理由を聞いた。(2M・A・) (本文P79~P80)

- ・「実現が難しそうだから」35%がトップ
- ・「自分の都合を優先して働く人が増えると、職場の人に迷惑がかかるから」31%、「家事や育児は女性がすべきだと思うから」20%が続く

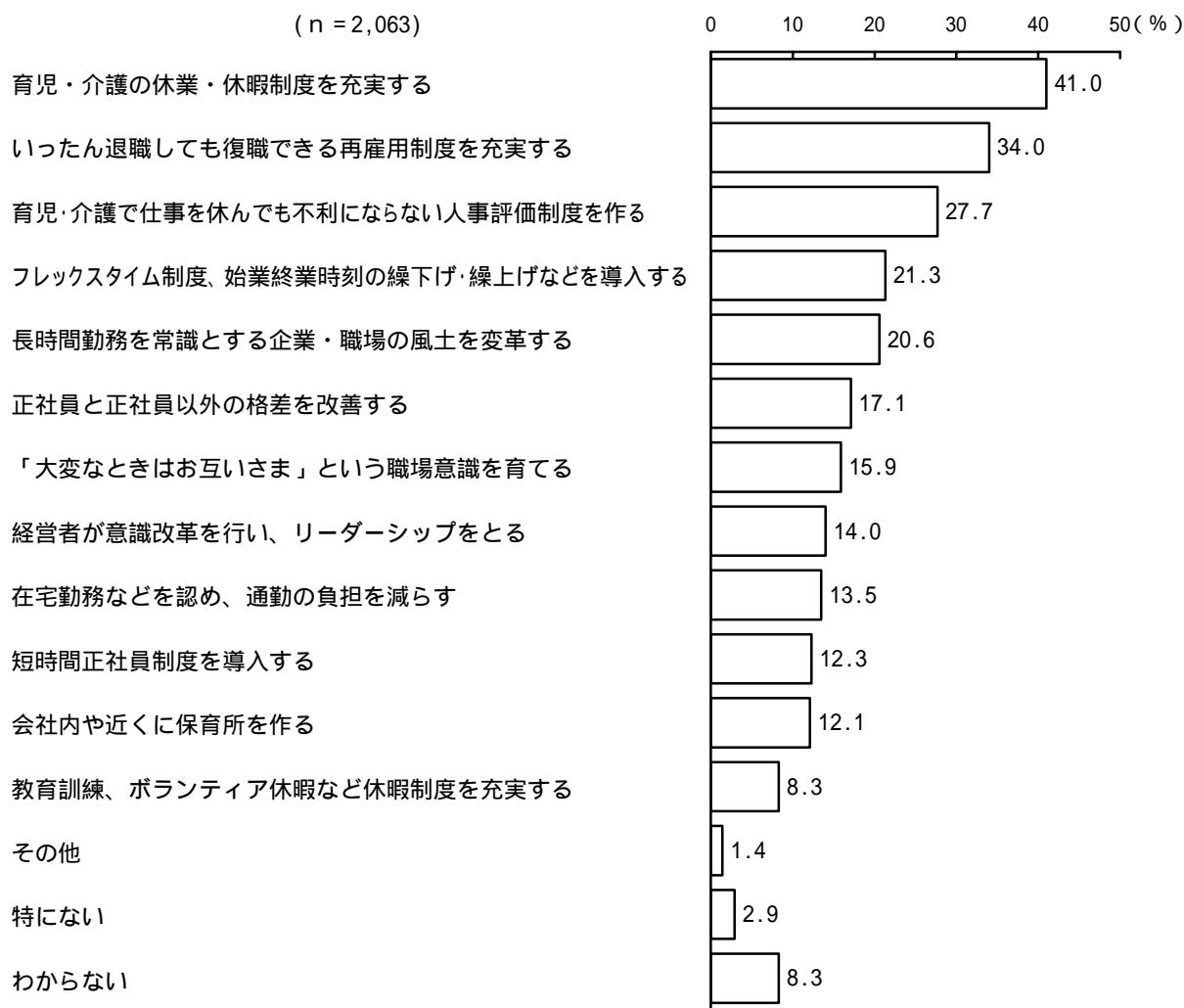


(10) ワーク・ライフ・バランス実現のための取組(1) 企業による取組:

ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)を実現するために、企業による取組として特に必要だと思うものは何か聞いた。(3M・A.)

(本文P81~P84)

- ・「育児・介護の休業・休暇制度を充実する」41%がトップ
- ・「いったん退職しても復職できる再雇用制度を充実する」34%、「育児・介護で仕事を休んでも不利にならない人事評価制度を作る」28%が続く

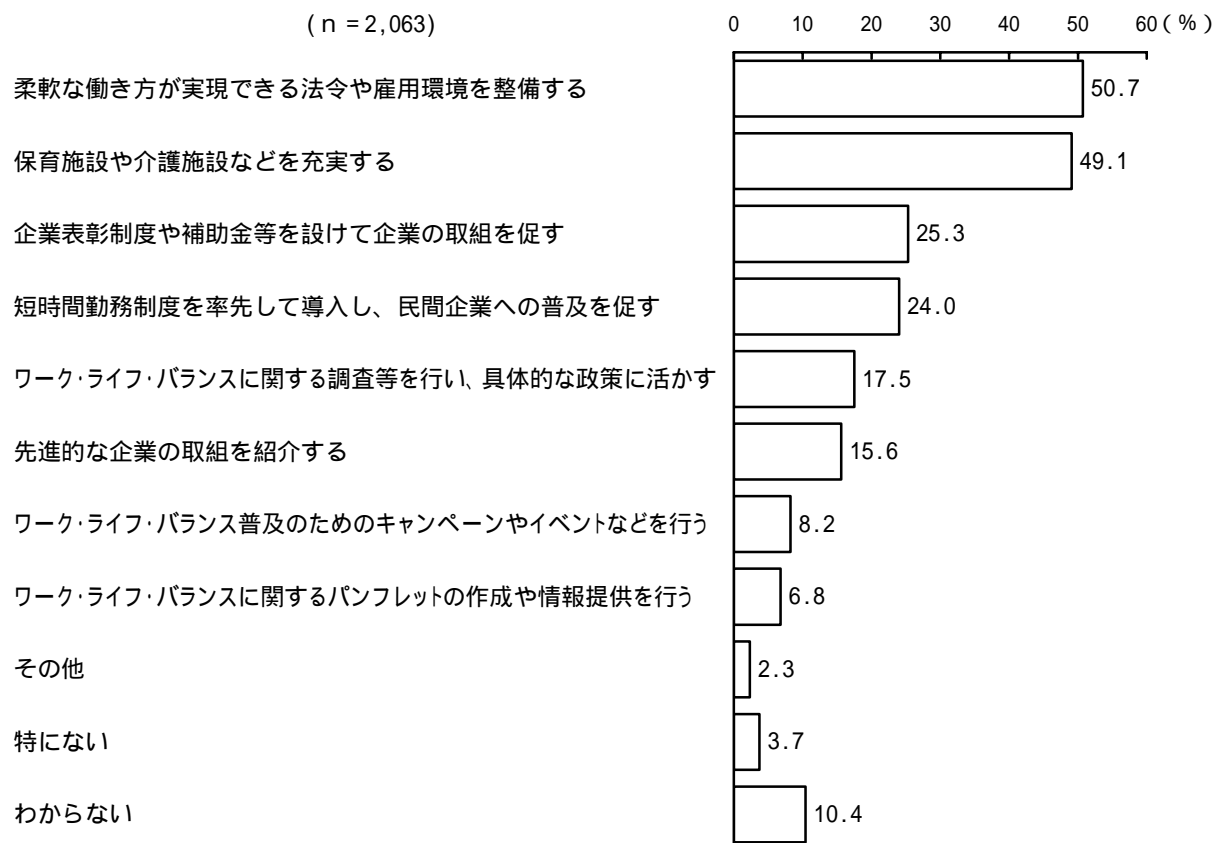


(11) ワーク・ライフ・バランス実現のための取組(2) 行政による取組:

ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)を実現するために、行政による取組として特に必要だと思うものは何か聞いた。(3M・A.)

(本文 P85 ~ P88)

- ・「柔軟な働き方が実現できる法令や雇用環境を整備する」51%がトップ
- ・「保育施設や介護施設などを充実する」50%、「企業表彰制度や補助金等を設けて企業の取組を促す」25%



(12) ワーク・ライフ・バランス実現のための取組(3)一人ひとりの取組:

ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)を実現するために、働く人を含めた一人ひとりの取組として特に必要だと思うものは何か聞いた。(3M・A・)

(本文P89~P92)

- ・「仕事以外に趣味や生きがいをもつ」49%がトップ
- ・「仕事の仕方を工夫して定時に帰る、残業を減らす」41%、「職場や地域でお互いに助け合うことができる仲間をもつ」34%が続く

